

星空の下で人気映画を鑑賞

バレンタインドライブインアターにかし村

バレンタインドライブインアターにかし村が2月9日、山田第2運動公園で開催されました。野外での映画を鑑賞しようとする多くの家族連れなどが訪れ、巨大な特設スクリーンの迫力ある映像を堪能。今回は子どもに人気の動物アニメや海上保安官の活躍を描いた映画が上映され、来場者らは車のFMラジオから流れる音声を聞きながら、家族団らんのひとつを楽しみました。山田町商工会青年部長の竹脇勇二さんは「地域の活性化のため新しい企画にも挑戦したい」と意気込みを見せていました。



新たな気持ちで夢を誓う

立志式

元服に倣い夢に向かって志を立てる立志式が、市内の各中学校で行われました。2月15日、志和池中学校では生徒らが色紙に書いた一文字を掲げ、夢や目標を発表。式典後、延岡学園男子バスケットボール部前監督の北郷純一郎さんが講演し「負けることから学ぶことがある。夢に向かって挑戦してほしい」とエールを送りました。「挑」を書いた永山奈津紀さん(2年)は「不安があると積極的になれなかった。今後は自信をもってチャレンジしたい」と文字に込めた思いを話していました。



心も体もまちなもりフレッシユ

ふれあいウォーキングin祝吉

ふるさとの魅力を知ってもらおうとふれあい健康ウォーキングin祝吉が2月17日、祝吉地区周辺で行われました。祝吉地区まちづくり協議会が主催する同イベントに約300人が参加。同協議会では、地域のつながりや家族の健康づくりのほか、環境美化にも取り組んでいて、参加者らは約6キロのウォーキングを楽しみながら沿道のごみを拾いました。家族と参加した中島桂子さん(祝吉二丁目)は「みんなでゴミを拾ったので、帰り道は見違えるようにきれいになった」と汗を拭っていました。



ユーモラスな演技につこり笑顔

春日神社へべどん

五穀豊穡を祈願する市指定無形民俗文化財の「へべどん」が2月17日、高木町の春日神社で奉納されました。親方と下男役にふんじた保存会の会員らが、田んぼに見立てた境内で、しつこい製の牛の模型を使った田おこしなどの農作業の様子を表現。諸県弁を使ったユーモラスなやりとりで、詰めかけた観客の笑いを誘っていました。炊き出しを担当した下村ミサエさん(高木町)は「地域の皆さんの笑顔がうれしいですね。今年も豊作になること間違いなしです」と目を細めていました。



日本のトップ選手らと対戦
FC東京サッカークリニック

サッカーJリーグFC東京の都城キャンプが2月12日から19日の期間、高城運動公園多目的広場で行われました。17日には、市内や三股町内の小学5・6年生約200人を招いてサッカークリニックを開催。ロンドン五輪で活躍した権田修一選手などが参加して、6人1組で円形を組みボールを奪い合ったり、ミニゲームをしたりしてサッカーの楽しさを伝えていました。平原千裕さん（志和池小5年）は「動き出すタイミングがうまくいった」と選手らのプレーに驚いていました。



かつてのにぎわいを取り戻す
まちなかフェスタ

地域の人たちが世代を超えて楽しめるまちなかフェスタが3月2日、千日通り周辺で開催されました。12番街、3番街、45番街、円頭庵通り、ゆずり葉大通りの5通り会が共同で開催。今年も通り会対抗の鍋合戦や体験教室などが行われたほか、呼び込みの音が響く店先では、多くの人たちが買い物や試食などを楽しんでいました。永井明恵さん（志比田町）は「苦手な牛乳を使った鍋を、子どもが完食したので驚きました。他の鍋も味わってみたいです」と家族とのひとときを楽しんでいました。



火山活動による不思議な地質遺産を堪能
霧島ジオパークバスツアー

3月2日、霧島ジオパークバスツアーが庄内・西岳地区で行われました。世界ジオパークへの登録を目指している霧島ジオパークに関心を持ってもらおうと初めて企画。52人の市民らが参加して、関之尾滝や御池町の神々溝などを散策しました。参加者らは鹿児島大学学井村准教授の説明に耳を傾けながら、火山活動でできた岩石の歴史や特徴などを学びました。家族で参加した上原邦博さん（南鷹尾町）は「こんな不思議な所があるのを知ることができてよかったです」と見聞を広めていました。



広がれ！ ボランティアの輪
みやこんじょボランティアフェスティバル

3月10日、南九州大学都城キャンパスでみやこんじょボランティアフェスティバルが開催されました。市内のさまざまなボランティア団体が活動内容のパネル展示や体験コーナーなどを開設。来場者らは、点字や手話の体験などを通して活動の意義を学んでいました。また、東日本大震災の被災地に送る横断幕の制作が行われ、復興に向けた応援メッセージを寄せていました。米津風紗さん（沖水小6年）は「東北の人たちが、早く笑顔をとり戻してほしい」と思いをメッセージにしてみました。





モンゴルとの友好関係の 発展に取り組む

モンゴルに風力発電機を贈る会
事務局長

川崎 けいいち 敬一 さん



モンゴルの遊牧民に風力発電機を贈る活動を通して、同国との友好関係の発展に取り組む「モンゴルに風力発電機を贈る会」。同会の事務局長を務め、ウランバートル市をはじめ、モンゴルとの友好に広く関わっているのが川崎敬一さん（下川東四丁目）です。

川崎さんは、昨年3月に都城工業高等専門学校を退職。現在は、同校技術支援センターで学生に技術指導を続ける傍ら、21年間にわたり風力発電機を贈っています。

モンゴルからの留学生と交流のあった知人からの相談で、モンゴ

ルの特に貧しい地域で生活する人たちのために、移動が簡単で発電効率の高い小型発電機を考案した川崎さん。平成5年8月に1号機を贈って以来、改良を重ね、現在までに約70機を寄贈しました。

川崎さんは、現地の環境や文化、生活スタイルを壊すことのないよう配慮することはもちろん、現地でも入手可能な材料を使うことで、長く使用できる風力発電機を開発することに苦心しています。

寄贈は自費で行っていて、贈られた風力発電機は、それまで、ろうそくや廃油を利用した照明で暮らしていた遊牧民の生活に明かりをともしています。風力発電機を贈られた家庭の母親が「これからは夜でも裁縫ができる。そして、子どもたちも電灯の明かりで勉強できる」と喜びの声を掛けてくれたことが印象に残ったといいます。

昨年、日本とモンゴルとの外交関係樹立40周年を迎え、これまでの活動が評価された川崎さんは今年1月、在モンゴル日本国大使館から表彰を受けました。「最終的には、モンゴル国内で生産できる体制を整えて、現地の人たちの生活を支えたい」とこれからの目標を話していました。

環霧島探訪

— かんきりしましたんぼう —

Vol.12

今月は、宮崎県内で2人しかいない「星のソムリエ」を紹介します。

◎問い合わせ 小林市商工観光課 ☎0984-2311174



東さん(左)、
柚木山さん(右)

星のふるさと日本一に5度輝いた小林市が誇る北きりしまコスモドームに、県内で2人しかいない「星の案内人(通称・星のソムリエ)」がいます。館長の東修一さんと柚木山成樹さん。客の要望に応じてワインを選ぶ手助けをするソムリエのように、星の魅力を分かりやすく解説してくれます。

2人が星のソムリエを知ったのは4年前。資格取得のために福岡まで通い勉強。1人しか合格しないこともある狭き門を突破し、2人の星のソムリエが誕生しました。資格取得後、2人はソムリエとしての責任感を励みに活動しています。季節で違う星空を勉強し、来館者に詳しい数値や神話とともに紹介。説明にはそれぞれの個性があふれていて、東さんは、星の

美しさを科学の世界から分かりやすく解説する理論派。一方の柚木山さんは、神話を交えて紹介するロマンチストです。柚木山さんは星の魅力を「同じ星でも、季節や天候、場所でその美しい自然の光の見え方が全く違うことを知って、星の魅力を感じてほしい」、東さんは「本物の美しさを体験することとで安らぎを感じ、思い出を作ってもらえれば」と目を輝かせます。コスモドームを訪れると、分かりやすい解説とともに美しい星空を体感でき、深い感動を味わえます。そこには、果てしなく美しい感動の世界へといざなう、個性豊かな星の案内人がいるからです。

※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています



ゴボウのピーナツ和え

香り高いゴボウを食卓へ

※1人分70kcal、カロリー、塩分0.8g



●材料(4人分)

ゴボウ…200g

(A) [だし汁…200cc 砂糖…小さじ2 酒…大さじ1
薄口しょうゆ…小さじ2]

(B) [ピーナツ粉…15g 砂糖…小さじ1 塩…小さじ1/5]

●下準備 ゴボウ…皮を包丁の背でこそぎ、5cmの長さに切り4つ割りにして水にさらす

(B) を混ぜておく

※だし汁の作り方 ①鍋にお湯を沸かす

②沸騰後かつお節を入れ、約1~2分したら火を止める

③かつお節が鍋に沈んだら目の細かい布などでこす

●作り方 ①ゴボウは、(A) で柔らかくなるまで煮る

②ゴボウの汁気を切って、(B) をまぶす



ゴボウ

ゴボウは、食物繊維の豊富な食材です。便秘解消の

ほか、腸からの糖分の吸収を緩やかにして、血糖値の急激な上昇を抑える働きがあり、動脈硬化やガン予防にも効果的です。

ワン!ポイント

香りやうま味の元となる成分は、皮や皮に近い部分に多く含まれているので、表面を薄くこそぎ落として調理するのがポイントです。

◎問い合わせ

健康課 ☎2312765